

鸛鵲樓に登る

王

之

渙

白日依山尽

黄河入流

千里目

更上一层楼

【作者】

王之渙（六八八〜七四二年）盛唐の詩人。字は季陵（きりよう）。山西省新絳（しんこう）郡の人。一時役人をしたこともあったが生涯の大部分を在野で過ごした。王昌齡、高適（こうせき）と親しく辺塞詩人として有名である。

【語釈】

*鸛鵲樓：山西省永濟県の黄河を望む地に立っていた三層の楼。鸛鵲（こうのとり）がここに巢を作ったのでこの名があるという。*白 日：太陽 *黄 河：中国の二大河川の一つ、黄色の沙をふくんで流れるのでこの名がある

*千里目：千里のかなたまで見通せる眺望

*一層樓：楼の一階上

【通釈】

鸛鵲樓に昇ると光り輝く太陽も、西の山々によりかかるように沈んでゆき、眼下には滔々（とうとう）と黄河が東の海に流れ続けている。この雄大な眺めを千里の彼方まで見きわめようとして、更にもう一層上へと登ってみるのである。